

農業委員会自主活動による遊休農地の解消

農委会名：天草市農業委員会

1 地域の概要

天草市は、熊本県の南西部に位置し、周囲を藍く美しい海に囲まれた天草諸島の天草上島と天草下島の一部、御所浦島などで構成されている。平成18年3月27日、2市8町が合併して誕生し、面積は683.82平方キロメートルで県内最大となっている。

地形は、そのほとんどが山林で占められ、急峻で平野部は少なく、河川沿いの平地部や海岸線の河口部に市街地や集落、農地が展開し、それらを結ぶように海岸線沿いに国・県道が配置・整備されている。

産業は、温暖な気候を生かした農業や豊かな水産資源を生かした漁業を主として発展してきました。また、国立公園に指定された自然景観、南蛮文化やキリシタンの歴史など多くの観光資源に恵まれている。

過去10年間の平均気温は16.6℃で、最高気温は35.7℃、最低気温は-3.0℃となっている。暖流の影響で、海岸部の一部において無霜地帯があるが、近年は冬寒く夏は猛暑日が続くなど、春と秋が短くはっきりとした四季が特徴的である。

年平均降水量は2,166mmで、6月から7月の梅雨期に年間の3分の1が集中し、台風襲来の時期とも重なることから、度々風雨による被害が発生している。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 13人（うち認定等8人、女性3人）
- (2) 推進委員数 34人（うち認定等21人、女性0人）
- (3) 事務局体制 10人（専任）

3 掲げた目標

遊休農地の解消面積 45ha

4 目標に向けた取組み（運動）の内容

【遊休農地の解消】

- ・天草上島地区において利用状況調査結果を基に遊休農地の解消箇所の選定を行った。
- ・選定後、所有者に面会し、農業委員会自主活動事業の趣旨を説明し、了承を得た。
- ・対象農地の再生を目的に、農業委員・農地利用最適化推進委員で18aの遊休農地を再生し、景観作物（ひまわり）を植栽した。
- ・ひまわりの満開時に、地元の幼稚園児・保育園児と農業委員・農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局職員による花摘み会（鑑賞会）を実施した。
- ・解消後の農地について、農業委員・農地利用最適化推進委員を中心に地元の担い手や新規就農者へのマッチングを行い、農地の利用権設定の推進を図った。

(別紙様式①)



【耕起】



【施肥】

5 取り組みの成果

遊休農地を解消することで農地を再生し、約5千本のヒマワリを咲かせることができた。

8月29日に農業委員・農地利用最適化推進委員13名で除草作業と耕起・施肥を実施。9月8日に農業委員会事務局職員3人、農業委員及び推進委員13人、地元の苓陽幼稚園及び倉岳保育園の園児・職員45人の合計61名でヒマワリの種まきを実施した。

その後、ひまわりは順調に生育し10月中旬に見ごろを迎えたため、10月21日に倉岳保育園(園児・職員18名)、25日に苓陽幼稚園(園児・職員27名)による花摘み会(鑑賞会)を行った。

園児らは、摘み取ったヒマワリを両手いっぱい抱え、自宅へ持ち帰った。

見ごろを迎えた10月中頃以降、市民等からの問い合わせもあり、農業委員会活動のPRにも繋がった。



【種まき】



【花摘み(鑑賞会)】

6 課題と今後の方針等

遊休農地・荒廃農地の解消が大きな課題であるが、復元された農地を担い手等が継続して利用できるように、農地中間管理機構を通じた利用権設定手続きを推進する必要がある。

今後も、農業委員と農地利用最適化推進委員が共に連携し、遊休農地・荒廃農地の解

(別紙様式①)

消につながる活動を展開していきたい。



【たくさんひまわりを摘みました】



【参加者全員で『はいチーズ!』】